

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
がん薬物療法看護論	2単位30時間(15コマ) 講義科目	博士前期1年次 後期開講	可・不可 「下記6, 7参照」
科目責任者	鳴井 ひろみ		
担当者	鳴井 ひろみ、本間 ともみ、棟方 正樹 (非常勤)、橋本 直樹 (非常勤)、 千葉 典子 (非常勤)、清 好志恵 (非常勤)		
<p><b>1. 科目のねらい・目標</b></p> <p>&lt;ねらい&gt; がんの診断・治療プロセスおよびがん薬物療法の最新の薬剤の治療効果や特徴、有害事象を学び、がん薬物療法を受ける患者の療養過程を支援するための臨床判断能力を修得する。また、がん薬物療法の継続および治療中の生活の質を高めるための療養過程への支援およびチームアプローチのあり方を学び、高度実践看護師の果たす役割を開発していく能力を育成する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) がん薬物療法の薬物動態と薬理作用の基礎について概説できる。</li> <li>2) がん薬物療法の有害事象の発生機序と予防について説明できる。</li> <li>3) がんの診断・治療のプロセスを文献検討に基づき説明できる。</li> <li>4) がん薬物療法のエビデンスに基づく臨床判断を行うために事例検討を通してケアとキュアの統合ができる。</li> <li>5) 外来・在宅でがん薬物療法を受けている患者の生活支援について説明できる。</li> <li>6) チーム医療を促進するアプローチを説明できる。</li> </ol>			
<p><b>2. 授業計画・内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回：がん薬物療法の薬物動態と薬理作用の基礎 (千葉) 【講義】【ディスカッション】</li> <li>2回：がん薬物療法の有害事象の発生機序および予防 (千葉) 【講義】【ディスカッション】</li> <li>3回：がん薬物療法における診断・治療プロセス (ガイドライン、アルゴリズム) ① (鳴井・本間) 消化器がん、肺がん、造血器腫瘍、乳がんの診断・治療プロセス、および薬物療法による有害事象の発生機序と日常生活への影響について、診療ガイドラインやアルゴリズムなどの文献検討に基づく討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</li> <li>4回：がん薬物療法における診断・治療プロセス (ガイドライン、アルゴリズム) ② (鳴井・本間) 消化器がん、肺がん、造血器腫瘍、乳がんの薬物療法を受ける患者の療養過程を支援するためのエビデンスに基づく看護援助について、有害事象のアセスメントツール、支持療法ガイドラインの文献検討に基づく討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</li> <li>5回：消化器がん薬物療法と看護：事例分析 (大腸がん) ① (棟方・鳴井・本間) 事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な医療処置と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】</li> <li>6回：消化器がん薬物療法と看護：事例分析 (大腸がん) ② (棟方・鳴井・本間) 5回の事例を基にがん薬物療法の意思決定支援、支持療法、多職種との協働のあり方についての討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</li> <li>7回：肺がん薬物療法と看護：事例分析 (非小細胞がん) ① (棟方・鳴井・本間) 事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な医療処置と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】</li> <li>8回：肺がん薬物療法と看護：事例分析 (非小細胞がん) ② (棟方・鳴井・本間) 7回の事例を基にがん薬物療法の意思決定支援、支持療法、多職種との協働のあり方についての討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</li> <li>9回：造血器腫瘍薬物療法と看護：事例分析 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) ① (棟方・鳴井・本間) 事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な医療処置と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】</li> <li>10回：造血器腫瘍薬物療法と看護：事例分析 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) ② (棟方・鳴井・本間) 9回の事例を基にがん薬物療法の意思決定支援、支持療法、多職種との協働のあり方についての討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</li> </ol>			

<p>11回：乳がん・生殖器系がん薬物療法と看護：事例分析① （橋本・鳴井） 事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な医療処置と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】</p> <p>10回：乳がん・生殖器系がん薬物療法と看護：事例分析② （橋本・鳴井） 11回の事例を基にがん薬物療法の意思決定支援、支持療法、多職種との協働のあり方についての討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>13回：外来・在宅におけるがん薬物療法看護 （鳴井） 外来・在宅におけるがん薬物療法を受ける患者のQOL向上のための課題 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>14回：がん薬物療法を受ける患者・家族へのチームアプローチ （清） 【講義】【ディスカッション】</p> <p>15回：がん薬物療法を受ける患者・家族へのチームアプローチにおける高度実践看護師の役割 （清） 【講義】【ディスカッション】</p>
<p><b>3. 教科書、参考書</b></p> <p>〈参考書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアカリキュラム日本版、手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア、医学書院、2017年</li> <li>・Linda H. Eaton 他著、鈴木志津枝他監訳：がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス、医学書院、2013年</li> <li>・Mary Fran Tracy 他著、中村美鈴他監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、第2版、へるす出版、2020年</li> <li>・井部俊子他監：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015年</li> </ul> <p>他、講義の中で適宜紹介する。他、講義の中で適宜紹介する。</p>
<p><b>4. 成績評価方法</b></p> <p>授業への取り組み状況 30%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 70%で総合的に評価する。</p>
<p><b>5. 受講要件</b></p> <p>CNS（専門看護師）コースがん看護の学生は必修</p>
<p><b>6. 社会人学生に対する配慮</b></p> <p>オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。オンライン授業の場合はリモートでの同時双方向型授業を行う。</p>
<p><b>7. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。</li> <li>・状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。</li> <li>・オンデマンドの実施不可</li> </ul>